

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

## メッセージ

著者	船山 仲他
雑誌名	神戸外大論叢
巻	68
号	1
ページ	5-5
発行年	2018-04-20
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1085/00002205/">http://id.nii.ac.jp/1085/00002205/</a>

## メッセージ

船山 仲他 (FUNAYAMA Chuta)

神戸市外国語大学の皆様、特に英米学科の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。ご一緒させていただいたのはわずか14年間でしたが、とても密度の濃い大学人生活を送らせていただきました。

思い返せば、私の学年は、高校卒業が迫る1月に東京大学安田講堂における学生と機動隊の攻防戦をテレビ中継で見、その年の7月にはアメリカのアポロ11号が月面に着陸するのをテレビ中継で見ました。そういう新しい時代の流れの中で人生にとって一番面白いことは何だ、ということを探したある多感な18歳は“同時通訳”と呼ばれる営みに興味を持ち、しばしのめり込んでいきました。他人より一歩先に行くことは挑戦であり、会議通訳の現場では社会の現実を実地で学ぶ経験ともなりました。しかし、自分自身にとっては、人間の能力を明らかにする新しい視点を感じるようになったことが大きな収穫だと思います。それは、特に人間の言語能力についてです。それをどう学問のアプローチに繋げるか、自分なりに何らかの決着をつけたいと考えています。

大学という環境に話を移すと、今という時代の中で、いろいろな期待や注文が社会から大学に投げかけられてきています。教員には、人間の思想性について、広い視野から積極的に学生に語りかけていくことが求められるでしょう。同時に、大学は、専門性の砦であることを放棄することはできません。外国語大学の中核となる専門性は何なのでしょう。入学してくる学生が学びたいと目指していることを正面から受け止める必要があります。そう考えると大学人に課された任務はとてつもなく大きいと言えそうです。皆さんのエネルギーを期待します。